

工具、原料調達難を逆手に

工具各社が超硬原料であるタングステンの調達難を逆手に商機を見いだす。原料価格が高水準にある中、超硬工具を大径から小径に移行するといったコスト低減策を提案する。ソリッド工具から刃先交換型への転換などの省タングステン製品、立方晶窒化ホウ素（CBN）をはじめとするタングステン代替材種の品ぞろえも広げる。各社は需要の取り込みに向け、技術力の裏付けがある提案に注力する。（7面に関連記事）

工具メーカーの多くがタングステン使用量を抑え、東京ビッグサイトられる。個々の加工条（東京都江東区）で31件によるが、工具費を日まで開催中の「第33 従来比約7割減らせた回日本国際工作機械見 例もある。小径シフト本市（JIMTOF2 の加工提案は2005026）」で、「持続 年ごろから一部の顧客可能性」「資源循環」に行ってきたが、そのを掲げたプレゼンター 後の約20年間で工作機 ションや講演を行って 械の高速・高精度化が いる。「荒加工に使う 進み、提案環境が整っ 工具直径10ミリの大径 た。「超硬からCBN 工具を、6ミリの工具に 工具へのシフトも含 置き換えてみてほしめ、日本が強い微細・ い」と語るのは、日進 精密加工を支援する開 工具の黒沢淳一営業支 発を進めたい」（黒沢 援グループ長だ。 グループ長）。 小径工具ならばタン 一方、大手メーカ―

省タングステン提案 持続可能性と循環 重点

JIMTOF 2026では工具各社が原材料問題をめぐる プレゼンテーションや講演を行う（予定を含む）	
三菱マテリアル	工具が“還る”時代へー超硬資源の循環が支える
住友電気工業	持続可能なモノづくりーリサイクル・省タングステン工具
京セラ	リサイクルー持続可能なものづくりの実現を通じた安定供給
富士ダイス	超硬合金代替材料や省資源に向けた製品開発
ダイジェット工業	タングステン高騰に立ち向かう！刃先交換式工具への切り替え
ワルター・ジャパン	「省人化×省タングステン」を軸とする高効率工具群

は原材料確保からリサイクルまでの供給責任を訴える。住友電気工業はプレゼンで「超硬の約90％はタングステン使用量を超硬より約80％削減した。セラの約90％はタングステンミックスと金属を複合ンできている。（中したサーメットは刃が間原料の）パラタング欠けやすいが、合金組ステン酸アンモニウム織を見直し、耐欠損性（APT）価格は25年を高めた。工具費を約35％減らす事例もある。初頭比9倍にまで高騰した」と説明した。同社は鋼旋削用コーテッドサーメット材種を交換を対象領域の約75％まで広げた」（担当

者）。業務提携する富士ダイスとダイジェット工業は、それぞれ開発した省タングステン硬質材料を互いの商流で拡販する。いずれもレアメタル（希少金属）のタングステンとコバルトの使用を抑えたが、硬度は超硬と同等程度という。各社は耐摩耗工具向け、高温領域に強い金型材向けなど、すみ分けできるため、補完関係を築きやす

日本機械工具工業会は26年度の機械工具生産額を前年度比22・9％増の6021億3700万円と見込む。一見好調だが、タングステン高騰に伴う製品値上げ、価格改定前の駆け込み需要が要因で、業界には「実力とは考

えておらず、先行きを慎重に見ていきたい」（金子善昭MOLDI NO社長）との声が多い。工具スクラップの国内での有効活用を含め、持続可能なモノづくりに向けた施策の積み重ねが欠かせない。